
馬鹿。

忍龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿。

【Zマーク】

Z3256

【作者名】

忍龍

【あらすじ】

あい、それは甘くう～、あい、それは強くう～（中略）あああいあればこそ 世界は一つ あい故に人は美しい～！！

(前書き)

「ミュージカルを見た」とは一度もありません。

牧場で一日乗馬体験をしていたあたしは

乗っている馬の鼻先にハチが飛んできたことで馬が驚き

あたしは落馬

気がついたら異世界にて

あたしは馬になつておりました

馬かよおおおおおおおおオオオオオオッッ！－！－！

何で馬？！

あたし何か悪いことした？！

そもそも生きてることが罪？！

じやあ生まれてきて、めんなさいだこのやうつ！

「まつてね～ローズちゃん、今あなたの冠を作つてこるのよ～

「ブヒン（こうなこし）－

ブヒンブヒン鼻息荒く、荒れ馬の如く行つたり来たりするあたしの
傍で
この國のお姫様が野原に座り込み、ぼやや～ん、とした雰囲氣で花
冠を作つてこる

お姫様を護衛する騎士は、ちょっと離れたところで待機

荒れ馬っぽいあたしが神経質そつこいつひじても気にしない
大層氣性の荒そうなあたしが生まれてこの方、人や他の動物を襲つ
たことは一度も無いからだ

先月、大人の馬になつたあたしは

何度か王家ゆかりの名馬とつがいにされそうになつたが

母馬譲りの氣性の荒れを發揮して、取り合えず事なきを得ている

みんなの反応的には、あの馬の子だもん、仕方ないよね～、みたいな

母馬、いや、お母様（そつ呼ばないとキリンの首攻撃みたいなので叩かれる、でもお母様に言ひ寄つて凄まじい蹴りを喰らつていた雄馬の悲惨さに比べたらかわいいモンだつた）は大層氣位の高い馬で

暇さえあれば馬丁に頭突きをかまし、ブラッシングを要求していたお陰でお母様はいつもつやつやしてた

レディを意識していたのか走ることはあまりなかつたけど
気に入らない相手を追い回すその姿は魔獸かと思わせる壯絶さだつた

あたしはそんなお母様に、頭突きの仕方、効果的な蹴りの角度、気に入らない相手を追い回すコツなどを教わつた・・・・・

いや、もひとつ他に教えることあるよね？

そんなお母様は、現在、第三子を産み教育中らしい
よくあの鬼のよつこ氣位の高いお母様が雄を容認したなあ、と思つ
ていたが

あたしはその現場に出てわしている・・・

なんと、お母様は外国から珍しい布を持って一年に一度やつてくる
行商人の馬車馬と宜しくやつていたのである

お前のお父様よ、と紹介された時の

牛柄のその馬を見たときの衝撃といつたらなかつた・・・

馬車馬なだけあって、そこの馬より確かに体格がよく逞しかつた
のだが

なぜ牛柄なのか

正直、馬として生まれたことを理解した時よりもへこんだ

しかも、落ち込みから復活して、ふ、と両親を振り返ると
第二子の仕込み中だったのである

妊娠が分かったのでお母様から親離れさせられた今、生まれたのが弟か妹かは分からぬが、元気そうだということは馬丁の愚痴で知つてゐる

しかし毎度何処で仕込んでくるんだろう、と悪丁たちは首を傾げていた

お母様はレディらしくお忍びが大好きなのだ

仔馬だつたあたしの腹の下に首を突つ込んで引っ掛けたまま絶妙なバランスで高い柵を飛び越えた時には一瞬意識が飛んだ・・・

そんな超お転婆なお母様に今、問いたい

「あらあローズちゃん、あなたのお嬢さんがいらっしゃったみたいよ~？」

「ブヒン(なぬう)?」

お姫様ののんびりとした声に、あたしは振り返りもせずに猛ダッシュをした・・・が、

「ふふふ、僕の愛しのお姫様、恥ずかしがりやさんっ！」

誇張でなく死に物狂いで走っているのに

いつの間にか隣を余裕の表情で並走しているコイツ！！

左右に広がる凶器かつてくらい立派な角！

すばらしいおもむねねー！

お母様、「こんな時はどうすればいいですか?」
頭突きも蹴りも逃走も通じないのですが!

異種族っていうか鹿から追い回されているあたしは 一体どうすれば
いいですか？！

「鹿馬かもしけないよ」
かば

やがましい！」

愛に種族差なんて
存在しないのと同じだよ」

とか並んでゐるのですけれど

盗んだバイクで走り出したいくらいだけれどもバイク程度では何の足しにもならない気がする

誰かっ誰か装甲車を！…！

いや、馬が装甲車とか、あつてもどりつてもならんけれどもー…！

こつして朝日も夕日もない草原を、その日あたしさ力尽きるまで走り続けた

その後のことば

そのあとの…・・・」とは・・・

言いたく…・・・

・
・
・
ない

(後書き)

ところで、掛け声みたいな使われ方してるけど”イエア！”ってどういう意味なんですかね
検索したんだけれども二 動の放送主がヒットしたくらいで分からなかつた・・・

意味的には”よっしゃあー！”とか”イエイッ！”みたいなもんかなーと思うのですが
そこそこじりじりですが、こんな解釈でいいんですかね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3256/>

馬鹿。

2011年5月20日19時54分発行